

令和6年度 学校評価保護者アンケートについて

10月に実施しました学校評価アンケートでは、全校の約90%の方から回答をいただきました。いただいたご意見を、今後の児童生徒の教育活動や学校経営の参考とさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。

A 十分あてはまる B あてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない E わからない (単位100%)

		評 価 項 目	A	B	C	D	E
個々に応じた教育活動及び情報発信	1	学校は、上記学部の「目標・育てたい力」を意識して、指導・支援をしている。	46	47	3	0	4
	2	学校は、お子様の実態やニーズを把握している。	44	45	4	1	6
	3	学校は、個別の指導計画に沿って指導している。	52	44	1	0	3
	4	学校は、ICT機器を効果的に活用し、学習活動をしている。	35	47	4	2	12
	5	学校は、肢体不自由教育についての知識・技能に基づいて、指導している。	46	42	5	0	7
	6	学校は、学年や学習グループなどの教職員全員でお子様のことを理解し、関わっている。	44	42	2	1	11
自立と社会参加を目標として	7	学校は、地域との交流を考えた教育活動(居住地校交流、学校間交流など)を行っている。	33	55	4	0	8
	8	学校や寄宿舎は、家庭と連携しながら、生活習慣の確立や自立に向け適切な支援をしている。	42	42	2	0	14
	9	学校は、卒業後の生活を見通して、日々の教育活動を行っている。	32	46	6	0	16
学校全体の活性化	10	学校は、地域に対し、教育活動を広く発信している。	26	44	8	1	21
	11	学校は、保護者に対し、お子様の学習の様子をわかりやすく発信している。	44	42	3	8	3
	12	学校は、お子様・保護者のニーズを踏まえ、進路に関する情報を提供している。	30	52	3	3	12
	13	学校は、教職員やホームページなどから、寄宿舎の情報発信を行っている。	36	30	8	0	26
健康で安全な学校生活	14	学校は、お子様の健康状態を把握し、支援にあたっている。	55	36	3	1	5
	15	学校は、安心・安全な学習環境を整えている。	49	41	4	0	6
	16	学校は、地域・保護者と連携し、災害に備えた取組を行っている。	34	48	3	0	15
	17	学校は、一人一人の人権を尊重した言葉遣いや支援に努めている。	44	42	8	1	5
	18	学校は、お子様の困り感に気づき、教育相談等を通じていじめの対策に取り組んでいる。	33	38	3	0	26
	19	学校は、必要な福祉・医療サービスを把握し、情報提供を行っている。	44	30	6	2	18
働き方	20	学校は、働き方改革(学校電話の対応時間の案内や学校閉庁日の設定など)を推進している。	40	36	3	0	21

【寄宿舎教育】

	評 価 項 目	A	B	C	D	E
21	寄宿舎は、心身の自立をめざし、健康指導や基本的生活習慣の定着を図っている。	34	43	0	0	23
22	寄宿舎は、自治会活動を通して、主体的に他者と関わる力を育てている。	27	41	9	0	23
23	寄宿舎は、共同生活の中で、周囲と協調する態度や思いやる人間性を育てている。	40	30	7	0	23

【コミュニティ・スクール】

	評 価 項 目	A	B	C	D	E
24	学校は、教育目標や方針を地域や保護者に発信し、理解に努めている。	35	35	5	0	25
25	学校は、地域の人材や資源を活かした教育活動を行っている。	38	38	5	0	19
26	学校は、学びの成果を地域に発信する機会をつくっている。	33	38	5	0	24

【結果のまとめ】

アンケートの回答では、個々に応じた教育活動に関する項目の「1 学部目標を意識した指導」「3 個別の指導計画に沿った指導」、健康で安全な学校生活に関する項目の「14 健康状態の把握」「15 安心・安全な学習環境」について、「A 十分あてはまる」「B あてはまる」の肯定的評価が90%を超えるなど、概ね高い評価をいただいております。

一方、自立と社会参加に関する項目の「9 卒業後を考えた教育活動」、学校全体の活性化に関する項目の「10 教育活動の発信」「13 寄宿舎の情報発信」、コミュニティ・スクールに関する項目等については、肯定的評価が60～70%となっております。

また、アンケート全体のうち半数の項目で「E わからない」評価が15%以上と非常に多くなっており、それに伴って各項目の肯定的評価も低くなっていることが分かりました。

これらのことから、次年度に向けてキャリア教育(進路学習や地域の教育資源を活用した生涯学習)の充実を図ると共に、本校の教育活動が地域や保護者の方へ見える形で伝わるように、情報発信に関する仕組みを学校全体で改善していきたいと考えます。

【自由記述より】（→は、学校からの回答です。）

○寄宿舎教育について

- ・自分でできることが増えたり規則正しい生活ができたりするので、自立のためには良い。
- ・集団生活の中で社会性を身につけることができる。
- ・余暇活動が充実している。
- ・先生達がたくさん関わってくれ、専門的で手厚い支援を受けることができる。
- ・デメリットは、家族と一緒に過ごせなかったり、プライベートな空間がなかったりと、少し不自由なこと。

○コミュニティ・スクールの推進について（具体的なアイデア等）

- ・大学生ボランティアの教育活動への参加。旭川荘のイベントで子どもたちが作ったものを販売する。
- ・保護者同伴での職場体験。

→学生ボランティアについては、教育実習や文化祭、社会見学等で連携・協力している大学を中心に募集を行い、今年度も、寄宿舎の余暇活動の充実や文化祭のサポート等に複数の協力をいただきました。販売学習や職場体験については、現在校内外の資源を把握し、情報共有できるシステムづくりを進めています。本校児童生徒の実態や目指す姿を踏まえた校内のニーズと、地域の学校や施設のニーズを把握し、実現可能な活動を設定できるよう、情報の集約や提供を行っていきます。

- ・他校との交流が少ない。

→現在、居住地校交流（小中）、学校間交流（小：牧石小、中：高島中、高：創志学園）、文化祭（岡山南高校、就実大学）、社会見学・修学旅行（IPU、就実大学）、余暇活動（IPU、就実大学）のように、様々な場面で地域の学校との交流を行っています。交流を重ねる中で、活動内容や交流方法の幅も広がってきました。今あるつながりを大切にしながら、普段の学習の成果を校外でも発揮できるよう、児童生徒の発達や成長に合わせて適切な活動を計画していきたいと考えています。

- ・社会見学、修学旅行先の内容が乏しい。

→社会見学や修学旅行の行き先については、移動・摂食・体調・緊急時の対応などの観点と併せて、児童生徒が学校外の人や物に触れ、日頃の学習の成果を発揮する機会として、総合的に判断し決定しています。近年では、本校の児童生徒の多くが必要とする食事の再調理について、対応できる宿泊施設の減少が課題となっています。他校とも情報共有を行い、安全に活動できる環境を整えながら、その場所のできる活動を充実させることができるよう計画していきます。

- ・地域との連携、取組はどのようなことをされていますか？

→令和元年度より、地域のコミュニティ・スクールとして学校運営協議会（年3回）を設置し、本校の教育活動の充実や地域への貢献に向けて、保護者や卒業生、地域の医療・福祉・教育・産業等を担う方々との意見交換や情報共有を行っています。文化祭で開催したファッションショーは、児童生徒の願いをもとに、学校運営協議会で様々なアイデアや協力をいただいて実現したものです。その他にも、地域の生産者の方や公民館で活動されている方を外部講師とした授業、地域の方と一緒に学ぶ防災ワークショップの実施など、地域の方と連携・協力した取組を行っています。

○その他

- ・進路先や実習先へのやりとりを積極的にやってくださり心強かった。
- ・ALTの先生の時間を増やしてほしい。

→ALTの時間数は、県立学校の規定によって定められているため、学校独自で決めることはできません。しかしながら、大変貴重なご意見ですので、県へお伝えしたいと考えます。

- ・個別の指導計画は本人にも説明をしてほしい。本人が納得できる具体的な目標を掲げ、短期目標等を一緒に設定し、客観的な評価基準を設けてほしい。子どもに対する声掛けや、授業の振り返りの仕方についても考えてもらいたい。

→個別の指導計画の内容をもとに、本人と話をしながら学期の目標等を決めています。本人が納得して、意識しながら生活できるように、必要な場合は本人と一緒に丁寧に目標の確認をしていきます。日々の授業では、達成状況が分かりやすくなるように、具体的な数値目標等も設定していきたいと考えます。児童生徒への声掛けや振り返りについては、児童生徒の様々な感情をしっかり受け止めることで、より良い指導となるようにしていきます。

- ・一人一人に合った学習法について、もう少しきめ細やかに提案してほしい。

→自立活動の時間等を活用し、自分の適性を見つめ、自分に合った学習方法を考える時間を設定したいと思います。その中で適切な学習方法を選択できるように、様々な学習方法や効果的な学習方法を提案できればと考えます。

- ・子供に関わっている先生方が、肢体不自由教育についての知識・技能をどれくらいもっているか。

→児童生徒には、学年担任やグループの教員を中心に、自立活動やICT専任の教員等、卒業後を見据えて、いろいろな教員が関わっております。各教員の肢体不自由教育の経験年数は個々で異なり、専門性にも差はありますが、日々の教員研修等で知識・技能を身に付ける努力を今後もして参ります。お気付きのことがあればいつでもお声掛けください。

- ・日々の活動の様子が分かりにくい。教育内容についての発信（SNS等、写真での情報）を増やしてほしい。

→本校は自宅生、寄宿舎生、施設生と様々な生活形態の児童生徒が在籍しているため、保護者の方へのきめ細やかな情報提供が難しい現状があります。現在、Facebook（学校行事や授業の様子等）、Instagram（授業の様子や寄宿舎の活動等）、X（給食）で情報発信をしておりますが、それぞれの内容が異なっておりますので、ぜひいろいろなSNSをご覧になっていただければ有難いです。

- ・廊下、階段が暗い。危ない。

→ご指摘、ありがとうございます。児童生徒の安全が第一ですので、暗い日には適宜、電気を付けるように気を付けます。